

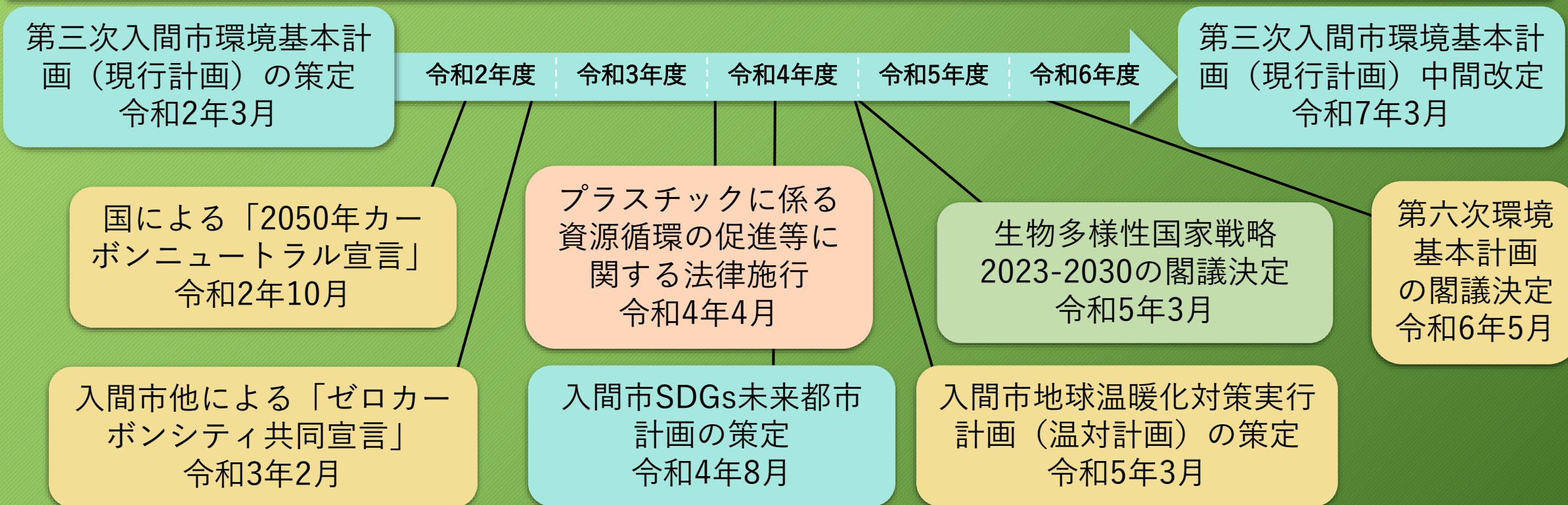
第三次入間市環境基本計画 【改定版】の概要

1

改定の背景

2

令和2年3月の第三次入間市環境基本計画（現行計画）の策定後、国によるカーボンニュートラル宣言や、プラ資源循環促進法、生物多様性国家戦略の改定など、環境行政を取り巻く状況は大きく変化しています。



改定の理由

3

温暖化対策

「第三次入間市環境基本計画」
令和2年3月

- 省エネ設備補助金、公共施設で省エネに努める

「SDG s 未来都市計画」
令和4年8月

- 2050年カーボンニュートラル
- 地域新電力の設立、PPA事業の導入など

「入間市地球温暖化対策実行計画」
令和4年8月

- 2050年カーボンニュートラル、2030年46%減
- 再エネ導入と新電力によるエネルギー地産地消、ゼロカーボンドライブなど

社会動向の変化に加え、市の温暖化対策等の取り組みを反映するため、計画の大幅な見直しを実施しました。

改定版の概要 主な変更点

4

- 計画期間の1年延長

- 計画期間を、SDGsの目標年度であり、入間市地球温暖化対策実行計画の目標年度でもある令和12(2030)年度に合わせる。

- 基本方針・施策の見直し

基本方針1 地球温暖化対策の推進

基本方針2 循環型社会の推進

基本方針3 豊かな自然環境と生物多様性の回復及び保全

- 現在の大きな環境課題「地球温暖化」「資源循環」「生物多様性」の項目を中心に大きく見直し。
- 「地球温暖化」と「資源循環」を独立。
- 「生物多様性」を追加

- 指標を成果指標として全面見直し

- これまでの各取組の実施数などの73項目の指標を全面的に見直し、成果指標として全31項目を設定しました。

改定版の概要 構成

5

第1章 計画の基本的事項	1
1. 計画の位置づけ	1
2. 計画改定の背景	1
3. 計画の対象範囲	2
4. 計画の期間	2
第2章 環境の現状と課題	3
1. 環境をめぐる社会動向	3
2. 入間市の環境の現状と課題	8
3. 第三次入間市環境基本計画の進捗状況	11
第3章 望ましい環境像と計画の基本方針	12
1. 望ましい環境像	12
2. 基本方針と施策体系	13
第4章 施策の展開と進行管理指標	16
第5章 計画の推進	41
1. 推進体制	41
2. 進捗管理	42
資料編	43
1. 第三次入間市環境基本計画改定経過	43
2. 入間市環境審議会委員名簿	44
3. 諮問・答申	45
4. 入間市環境基本条例	47
5. 入間市環境審議会条例	50
6. 用語解説	51

• 本編 5 章と資料編で構成

第 1 章 計画の基本的事項

第 2 章 環境の現状と課題

第 3 章 望ましい環境像と計画の基本方針

第 4 章 施策の展開と進行管理指標

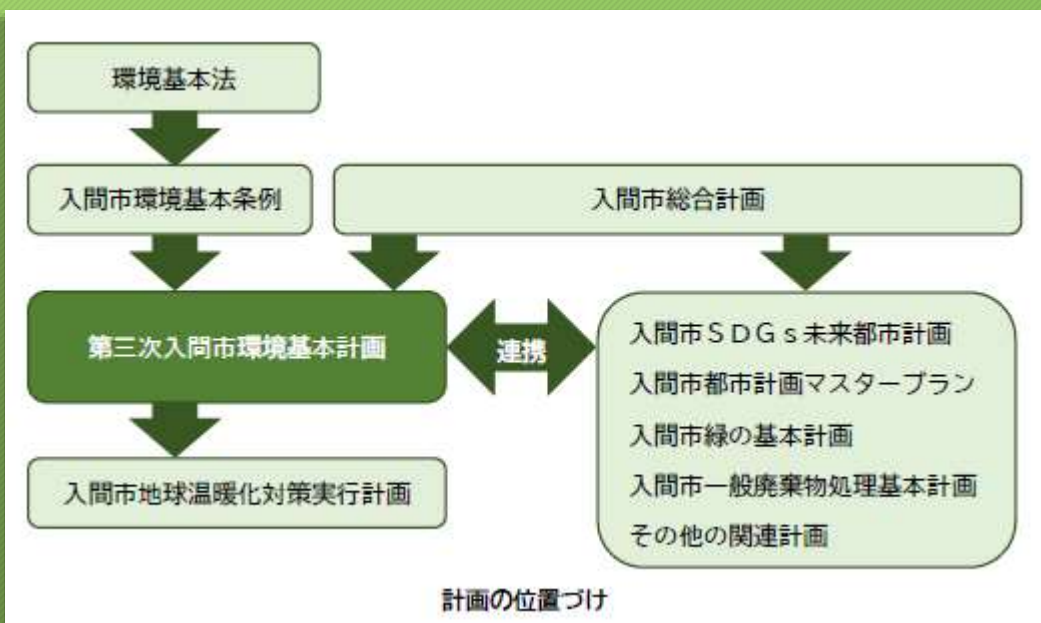
第 5 章 計画の推進

資料編

改定版の概要

第1章 計画の基本的事項

6



- 第三次入間市環境基本計画は、「入間市環境基本条例」に基づき、**市の環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を目的**として、令和2年3月に策定されました。
- 策定後、**社会動向や入間市を取り巻く環境が変化**していることを踏まえ、**計画の見直し**を行いました。
- 総合計画や各種関連計画と連携して取り組みを推進します。

改定版の概要

第1章 計画の基本的事項

7

地球環境	気候変動の緩和、気候変動への適応策 など
循環型社会	循環経済への移行、ごみの適正処理 など
自然環境	生物多様性、外来種対策、里地・里山 など
都市環境	地域の緑の充実、景観の保全 など
生活環境	大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭 など
環境教育	環境情報の発信、環境活動の実践 など

- 本計画では、「地球環境」「循環型社会」「自然環境」「都市環境」「生活環境」及び「環境教育」の6分野で施策を展開します。



- 計画期間は、SDGsの目標年度であり、入間市地球温暖化対策実行計画の目標年度でもある令和12(2030)年度に合わせるため、1年延長します。

改定版の概要

第2章 環境の現状と課題

8

第2章 環境の現状と課題

1. 環境をめぐる社会動向

国際的な動向

環境全般 持続可能な開発目標（SDGs）

平成 27（2015）年 9 月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」において、2030 年までに達成すべき具体的な目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられました。SDGs は、「誰一人取り残さない」という理念のもと、経済・社会・環境をめぐる課題に対し 17 の目標と 169 のターゲットで構成されています。また、企業、市民団体、学術機関や市民といったあらゆる主体が参画し、目標達成に貢献することが重視されています。

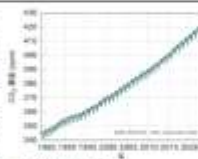


SDGsの17の目標

地球環境 パリ協定

18～19 世紀のイギリスで始まった産業革命以降、私たち人間は化石燃料を大量に使用するようになりました。化石燃料の燃焼に伴い、大気中の二酸化炭素濃度が急激に上昇することで、観測史上最も速いペースで地球の温暖化が進行しています。

これにより生じている気候変動は、異常気象、食料・水資源の減少、生態系の破壊などを引き起こし、経済的・社会的な影響を及ぼします。気候変動問題に対応するため、平成 27（2015）年 12 月に国連気候変動枠組条約締結国会議（COP21）で「パリ協定」が採択されました。パリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするという目標を掲げています。



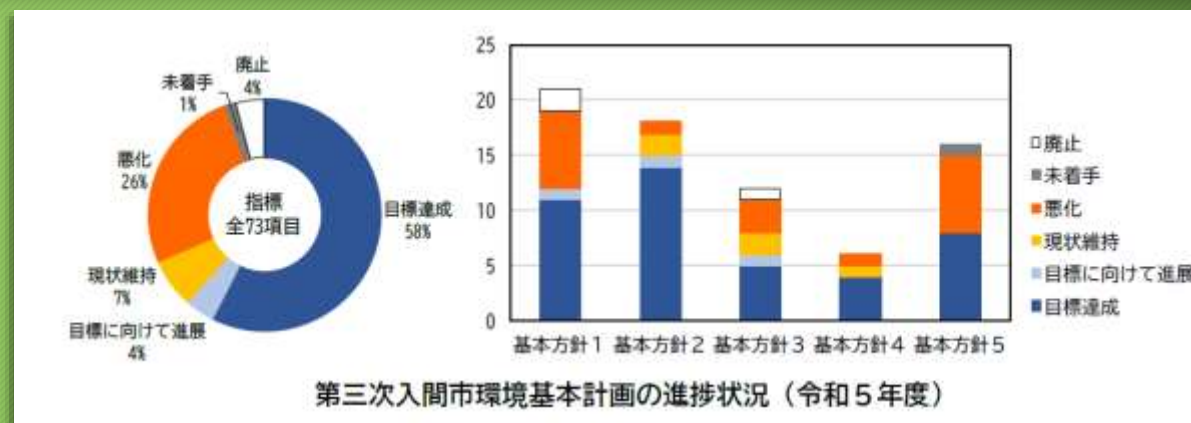
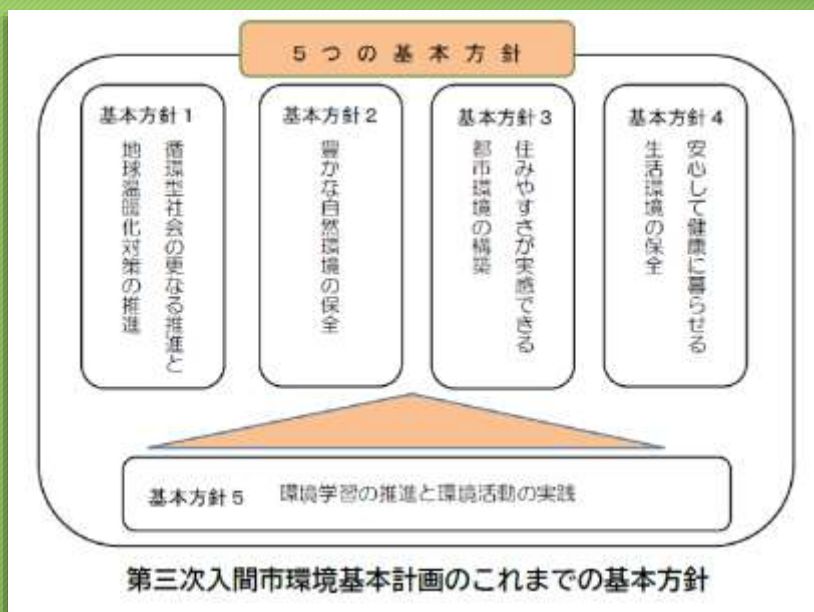
大気中の二酸化炭素の世界平均濃度

- ・ 国際的な動向、国や埼玉県の各レベルでの社会動向を整理しました。
- ・ 入間市における環境の現状・課題についても整理しています。

改定版の概要

第2章 環境の現状と課題

9



- 見直し前の73の指標を整理したところ、およそ6割が目標達成していました。
- 一方、新型コロナウイルス感染症の影響等で減速してしまった取組や、廃止した取組、定量的に評価できない指標もあるため、施策・取組、指標を全面的に見直ししました。

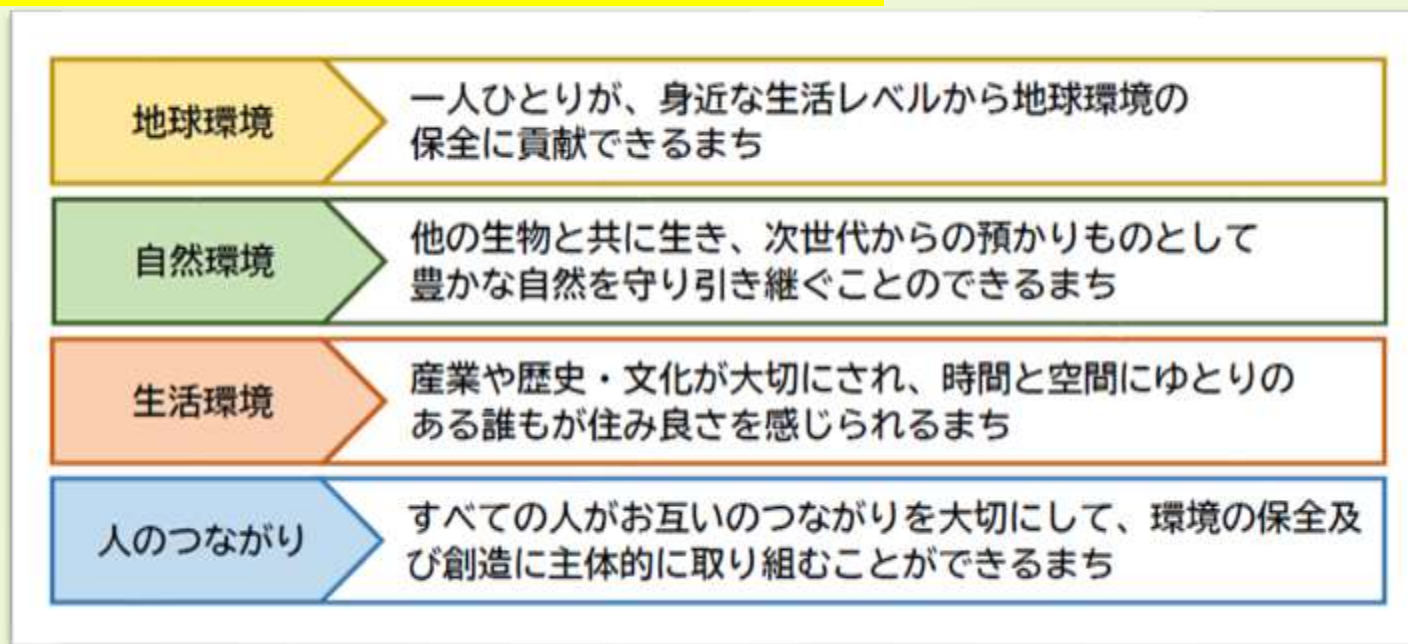
改定版の概要

第3章 望ましい環境像と計画の基本方針

10

【地球環境】 【自然環境】 【生活環境】 とそれを守るための【人のつながり】を大切にしたい市を目指すため、**望ましい環境像**を次のように定めます。

(第三次入間市環境基本計画から変更なし)



改定版の概要

第3章 望ましい環境像と計画の基本方針

11

現行計画

改定版

基本方針1 循環型社会の更なる推進と
地球温暖化対策の推進

基本方針2 豊かな自然環境の保全

基本方針3 住みやすさが実感できる都市環境の構築

基本方針4 安心して健康に暮らせる生活環境の保全

基本方針5 環境学習の推進と環境活動の実践

基本方針1 地球温暖化対策の推進

基本方針2 循環型社会の推進

基本方針3 豊かな自然環境と生物多様性の回復及び保全

基本方針4 住みやすさが実感できる都市環境の構築

基本方針5 安心して健康に暮らせる生活環境の保全

基本方針6 環境教育の推進と環境活動の実践

現行計画からの変更点を赤字で表記

改定版の概要

第4章 施策の展開と進行管理指標

12

以下の階層構造で、施策・取組を設定しました。

基本方針

基本施策

具体的施策

取組

※基本方針ごとのページに記載

2-2. 施策体系

望ましい環境	基本方針	基本施策	具体的施策	関連するSDGsの目標
一人ひとりが、身近な生活レベルから地球環境の保全に取り組むことにより、持続可能な社会の実現を目指す。 ・他の地域と共に生き、次世代に引き継ぐものとして豊かな自然環境を享受し、これに誇りを感じることを目指す。 ・産業・商業・文化が大切にされ、歴史・文化・自然環境に由来する価値が十分に発揮されることを目指す。 ・すべての人が暮らしやすい環境を創出し、環境の保全が暮らしの基盤として取り入れられることを目指す。	基本方針1 地球温暖化対策の推進	1. 気候変動の緩和 2. 気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会の形成に向けた生活スタイルの転換 再生可能エネルギーの普及促進 気候関連災害に対するレジリエンス強化 	
	基本方針2 循環型社会の推進	1. 3R(Reducable)の徹底による循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行の推進 2. ごみの適正処理による公衆衛生の向上	<ul style="list-style-type: none"> 3R(Reducable)の徹底 循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行の推進 ごみの適正処理の推進 	
	基本方針3 豊かな自然環境と生物多様性の回復及び保全	1. 生態系の保護 2. 里地・里山の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> 在来種の保護と外来種対策 里山等の生態環境の保全 海の保全・活用 	
	基本方針4 住みやすさが実感できる都市環境の構築	1. 地域の緑の充実 2. 歴史・文化を大切にした景観の保全	<ul style="list-style-type: none"> 身近な緑の保全と創出 歴史・文化の継承 	
	基本方針5 安心して健康に暮らせる生活環境の保全	1. きれいな空気 きれいな水 2. 騒音、振動、悪臭対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> きれいな空気の保全 きれいな水の保全 騒音、振動、悪臭の発生抑制 	
	基本方針6 環境教育の推進と環境活動の実践	1. 学びの場の充実 2. 活動の場の充実	<ul style="list-style-type: none"> 人間市の環境を学べる環境情報の発信 環境活動の実践 市民等による環境活動の支援 	

市民・事業者が手に取りやすいよう、紙面のデザインや構成を変更しています。

- ・基本方針ごとの色分け
- ・SDGsとの関連の記載など

改定版の概要

第4章 施策の展開と進行管理指標

13

めざす入間市の姿

環境課題が解決された将来の入間市について、市民・事業者と共通イメージを持つことを目的として、基本方針ごとに、取組が進み「望ましい環境像」が実現した入間市の姿を記載しました。

第4章 施策の展開と進行管理指標

基本方針1 地球温暖化対策の推進



【めざす入間市の姿】

地球温暖化対策の取組が広がり、温室効果ガスの排出量が最小限に抑えられた、脱炭素型のまちになっています。また、気候変動適応への取組を推進し、気候変動による生活への影響が最小限に抑えられています。

【施策の方向性】

基本施策	具体的な施策
気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会の形成に向けた生活スタイルの転換 再生可能エネルギーの普及促進
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> 気候関連災害に対するレジリエンス強化



出典：環境省 COOL CHOICE ツリサイト

基本施策1 気候変動の緩和

【各主体の役割】

取組の主体	主な取組内容
市	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会の形成に向けた生活スタイルの転換 <ul style="list-style-type: none"> 入間市地球温暖化対策実行計画に基づき、市民、事業者の脱炭素行動を促すとともに、市は率先行動により施設整備や脱炭素行動を推進する。 スマートモビリティ「SPRINT」を活用し、移動に係る行動変容を促し、脱炭素化を促進する。 公用車として導入した電気自動車（EV）のシェアリングにより、EVの普及を促進する。 再生可能エネルギーの普及促進 <ul style="list-style-type: none"> ゼロカーボンシティ推進設備設置費補助金の交付により、再生可能エネルギーの利活用を促進する。 地域新電力との連携によりエネルギーの地産地消を推進する。 PPAにより公共施設への太陽光発電設備設置を推進する。
市民	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を利用する機会を減らし、徒歩や自転車、公共交通機関を積極的に利用する。 自動車の買い替えの際は、電気自動車やハイブリッド車など、環境負荷の小さい自動車を選択する。 節電の啓発をLED照明に付け替える、省エネ性能の高い家電製品への買い替えなどにより、家庭での電力使用量を抑える。 荷物の受け取りの際は、宅配ボックスの設置、時間指定の利用などにより、再配達を削減する。 地元で生産された食材を積極的に購入し、地産地消に努める。 太陽光パネルなど、再生可能エネルギーを利用した発電システムを導入する。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を利用する機会を減らし、徒歩や自転車、公共交通機関を積極的に利用する。 事業所の照明をLED照明に付け替える、省エネ性能の高いオフィス機器の導入などにより、事業所での電力使用量を抑える。 クールビズやウォームビズなど、日々の気象や職場環境等に応じた服装を選択し、過度な冷暖房の使用を抑える。 太陽光パネルなど、再生可能エネルギーを利用した発電システムを導入する。 地元で生産された食材を使用した商品開発に努める。 環境負荷の小さい電力を調達する。

各主体の役割

市が行う取組のほか、市民・事業者それぞれに実践してもらう取組を具体的に記載しました。

イラストや写真を適宜挿入し、市民・事業者に期待する取組を視覚的に伝えます。

改定版の概要

第4章 施策の展開と進行管理指標

14

成果指標

取組の進捗を毎年度確認するための指標を設定しています。

これまで、定量的な評価が難しいものも含まれていた73項目の指標を全面的に見直し、**全31項目の成果指標を設定**しました。

コラム

必要に応じて**コラムを記載**し、環境に関する社会動向や市の取組に理解を深めてもらう構成としています。

【成果指標】

指標番号	評価対象	成果指標	数値目標 (令和5年度)	目標値 (令和12年度)
1	市域からの排出される温室効果ガス排出量	市域からの排出される温室効果ガス排出量	764,241t-CO ₂ /年 (令和5年度)	497,180t-CO ₂ /年
2	製造業・社会の形成に 与えた生活スタイルの転換	市の事務事業により削減される 温室効果ガスの排出量	11,202t-CO ₂ /年	6,509t-CO ₂ /年
3		製造業向けファススタイル促進事業 「サスティナブルウォーク」 による年間の削減効果	21,621t-CO ₂ /年	68t-CO ₂ /年
4	再生可能エネルギー の普及促進	家庭部門における再生可能エネルギーの導入割合	5.5%	40%
5		公共施設等における太陽光発電 設置（累計）	199kW	1,119kW

【取組の進捗による主なコベネフィット】



コラム コベネフィットとは

現代では、「環境」、「経済」、「社会」の3つの領域が密接に関わっています。持続可能な未来を実現していくためには、「環境」、「経済」、「社会」の統合的向上を目指す必要があります。

コベネフィットとは、一つの活動がもたらす、複数の分野の利益のことです。ここでは、地球温暖化対策で温室効果ガス削減とエネルギーの自給化といった環境分野の活動が、経済分野や社会分野の利益につながっていくことをいいます。

各主体が環境への取組を推進することで、SDGsの達成と「Well-being（ウェルビーイング）」の実現につながります。

コベネフィット

環境課題解決に向けた取組の実践が、経済・社会の各分野にも副次的効果をもたらす「コベネフィット」の考え方にに基づき、環境分野の取組が**経済分野、社会分野に与える効果の例**を記載しています。

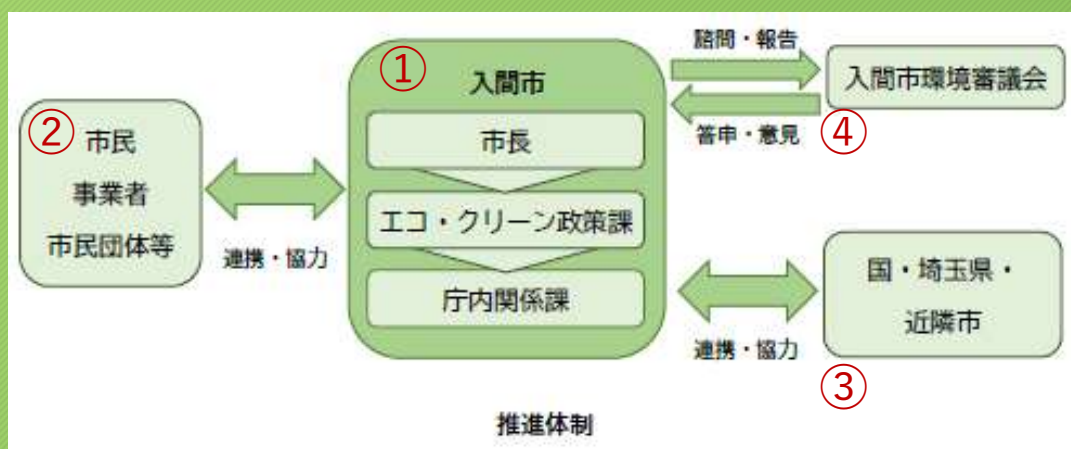
アンケート結果

市民、事業者、中学生へのアンケート結果は、取組への反映状況と併せてコラムなどで適宜掲載します。

改定版の概要

第5章 計画の推進

15



推進体制

- ① 各施策について、エコ・クリーン政策課がとりまとめ、関係課と連携・協力して計画を推進します。
- ② 市民・事業者といった各主体と連携・協力します。
※まちづくり会議を削除
- ③ 国や埼玉県、埼玉県西部地域まちづくり構想（ダイアプラン）の近隣市との情報共有・連携により取組を進めます。
- ④ 市民・事業者・学識経験者等で構成される「入間市環境審議会」において、計画の改定や進行管理を行います。

進捗管理

計画の取組状況については、PDCAサイクルにより、毎年度進捗管理を行います。

その結果は、これまでと同様に毎年、環境報告書「**いるましの環境**」で公表します。

